



将来の目的を持つことで、
勉強はもっと楽しくなる！



新緑が眩しい 4 月 22 日。この日は宇都宮短期大学附属高校のキャンパスで、第 1 回目の Study It Yourself プロジェクトの授業が行われました。教室に集まったのは、初々しい 1 年生 73 名の生徒たちです。初めての西岡講師の授業は、彼・彼女たちの心にどのように響いたのでしょうか。授業の様子をレポートします。

東大生の多くは高校 1 年生のとき勉強がつまらなかった

この日は 1 年生にとって初めての Study It Yourself プロジェクトの授業ということで、みんな期待と不安が入り混じった表情で、教壇に立つ西岡講師を見つめています。

「初めまして、僕が講師の西岡です。授業を始める前に、まずは全員であいさつしましょう！ それではみなさん、宜しくお願いします！」。

この言葉の後に続き、生徒たちも背筋を伸ばして「宜しくお願いします」とあいさつをします。このあいさつで、生徒たちの心もぐっと引き締まった様子。まっすぐに西岡講師を見つめて、次の言葉を待ちます。

「それではさっそく質問です。みなさん勉強は好きですか？ 嫌いですか？」。

突然の問いかけに少し戸惑った様子を見せた生徒たちですが、数分後には、

「あまり好きではない」、「嫌いだが、やらなければいけないと思う」といった意見が次々と挙げられます。

ここで西岡講師から、東大生を対象に取ったというアンケートの結果が紹介されました。

「東大生に勉強は楽しいかを尋ねたところ、7割の人が、勉強が楽しいと回答しました。でも面白いことに、多くの人が、高校1年生のときには勉強がつまらなかったと答えているのです」。

このアンケート結果は、生徒たちにも大きなインパクトを与えたよう。みんな固唾をのんで、西岡講師の次の言葉を待っています。

「東大生でも最初は勉強がつまらなかった。でも、高校で3年間勉強するなかで、勉強の面白さに気づいていったのです。僕がみなさんに伝えたいのは、勉強がつまらないと決めつけるのは、まだ早いということです」。

この西岡講師の言葉は、生徒たちの勉強に対する考え方を変化させたようです。みんなの表情が、一段と引き締まったように見えました。



なぜ勉強するのか、その意味を深掘りしてみよう

続いて西岡講師は、「勉強」についてこう話しました。

「勉強には3つの意味があります。1つ目は、勉強は楽しいこと、2つ目は、勉強は役に立つこと、そして3つ目は、勉強は自信になることです」。

ここで紹介されたのが、東京大学の入試問題です。突然の入試問題に生徒たちからは戸惑いの表情が見てとれましたが、西岡講師の次の言葉を待ちます。

「皆さんには東京大学の入試問題を解いてもらいます。そんなこと無理だと思う人もいるかもしれませんが、高校1年生の知識でも十分に解ける問題になっています。私たちの生活とのつながりもあり、とても面白い問題となっています。」

西岡講師の言葉に、生徒たちのやる気は一気に引き出されたようで、生徒たちは周囲と相談しながら、積極的に答えを考えます。

数分後、西岡講師が生徒に解答を聞いてみます。

正解の解答に多くの生徒の手が挙がり、これには西岡講師も大変驚いた様子でした。

「勉強すると今まで何となく見ていたもの、聞いていたものを本質まで理解でき、自分の世界が一気に広がります。「勉強」は自己を高めてくれるとても面白いものです。」

勉強は面白くないもの、と思ってきた生徒たちにとって、この一問は大きな刺激となった様子。みんな目を輝かせて、西岡講師の話に耳を傾けていました。



問題を解説し終えたところで、西岡講師は自身の過去について話し始めました。

「もともと僕は、偏差値 35 で、勉強もスポーツも苦手でした。そんな僕を見かねて、先生が言ったんです。『人は、自分はこの人にはなれないという<なれま線>という線をつくりがちだが、西岡はその線がめちゃくちゃ自分の近くにある。その<なれま線>を越えるためにも、勉強して東大に行け。スポーツや音楽には才能も必要だが、勉強には才能は必要ない。勉強は平等だ』と。その言葉があったから、僕は2浪して、東大に入ることができました」。

自分の中にもいろいろな<なれま線>があることを感じたのでしょうか。生徒たちはこれまで以上に真剣に、西岡講師の話に聞き入っています。

そんな生徒たちの表情を見ながら、西岡講師は続けました。

「この<なれま線>は、自分で引いています。みなさんには、その線のなかで人生を終えて欲しくありません。今から本気で頑張れば、きっと東大に入れます。もちろん、絶対に東大に行く必要はありませんが、何か1つ、本気になれるものを見つけてもらいたいと思います」。

そんな言葉で締めくくられた、今回の授業。第1回目ながら、とても盛りだくさんな内容となりました。生徒たちにとっては、改めて「勉強することの意味」を考える、貴重な時間となったことでしょう。